



『歩く』エンタメで社会課題を解決！ 男気コース!!

企画当初はスタジアムアクセスの改善が目的でしたが、協働者との連携が増える中で、歩くことによる、道路渋滞の緩和、CO2削減による環境改善、健康増進など、自然発生的に地域課題の解決へとシフトした。歩くという非常にシンプルだからこそ、気兼ねなく参加ができ、新たな出会いや発見、楽しみが味わえる。開催毎に魅力となるコンテンツの入れ替え、協働者を増やすことで日常的に歩くこと、地域課題を考える機会を創出している。更に、協力企業によるウォーキングアプリの開発、導入により、地域課題に対して一人一人が取り組み、参加者の総歩数がインセンティブとして返ることも大きな魅力である。目標は歩きやすく住みよい街No.1！

活動場所 : 小田急線鶴川駅から町田GIONスタジアムまでの町田市鶴川エリア一体

取組テーマ : 持続可能な地域づくり

協働者 : 企業／住民／行政／ファン・サポーター／病院／福祉施設／協議会

協働者名 : 小田急電鉄株式会社、株式会社小田急エージェンシー、ケアフルクラブ悠々園、町田市社会福祉協議会、まちだの丘連絡会、一般財団法人町田市文化・国際交流財団、株式会社ラナエクストラクティブ、町田市役所環境資源部（環境政策課、環境・自然共生課、環境保全課、循環型施設整備課、資源循環課、3R推進課）、町田市保健所健康推進課、町田市役所文化スポーツ振興部スポーツ振興課、オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課、町田市役所地域福祉部福祉総務課、町田市役所防災安全部市民生活安全課、町田市役所道路部道路管理課、経済観光部観光まちづくり課

活動で工夫した点

目的がブレないことを大切にしながら、単純に歩くだけでなく、コース設定、街の魅力など、参加者のワクワク感をかきたてる内容作りを行うべく、行政・協力団体への働きかけに注力している。更に、参加者の声を積極的に取り入れ、協働者それぞれの強みを生かした活動を心がけながら、「振り切って、はっちゃけて、最大限楽しむ！」という精神のもと、地域課題の解決へと繋がるようなプログラム構成をしている。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

参加者だけでなく、協働者の中にもあった「最寄駅からスタジアムまでは歩けない」「歩く距離ではない」という潜在意識を、「これなら徒歩圏内でしょ！」「という意識の改革が大変だった。潜在意識という参加への高い障壁を超えるべく、魅力的なコンテンツ・インセンティブを提供することで、まずは1回、参加をしてもらう環境を整備し、協働者、参加者対話を繰り返しながら、毎回何か1つ進化をさせていくことを心がけている。

クラブや地域の活動後の変化

当初は多くの方から「なぜわざわざ歩くの？」という声も聞かれたが、いざ歩いてみると「コースの提案いいですか？」「こんなテーマだったらもっと魅力的じゃない？」と協働者だけでなく参加者からも積極的なご提案をいただく状況がうまれた。毎回新たな参加者がいることも大きい。普段は活気のない商店街への立ち寄りをコース内に設定し、参加者の消費により商品の売り切れがでた時は、みんなで騒ぐほど地域の一体感が出てきた！



協働者の声

町田市役所環境資源部・香山さんの声：
シャレンに参加し、「サッカーが選ばれ続ける未来のために、今できることを考える」というテーマに感銘を受けました。その課題意識は、自治体運営を行う我々にも通じています。そんな中、男気コースという企画は【スポーツ×環境行政】という新しい切り口と、【歩く】というシンプルな提案で、官民協定の枠組みにとらわれない取り組みとして実施しています。今後も、小田急電鉄との連携等、更なる可能性の拡がりを感じています。

参加者の声

初参加でしたが、遠足みたいで楽しかったです。ここ曲がるのー!?笑…みたいな面白いコース設定や、ゼルサポはもちろん他サポの方々や普段交流することのない団体の方とも話が弾み、苦なく歩けました。それがエコや地域課題に繋がっている事も誇らしいです。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

目的ありきではなく、協働者が増えていく過程でお互いの長所や魅力をいかした取り組みを行うことで、自然発生的に地域課題の解決へと繋がる活動へとシフトしたことは、他の活動と大きな違いではないか感じている。

補足

中心となるものが『歩く』という非常にシンプルなものなので、繋がっていく先が幅広い。病院や高齢者施設では、リハビリの一環として活用いただいたり、外出する機会の創出として利用いただいている。また、最近では外国の方々の参加も増えてきており、歩くだけで国際交流ができることは、東京オリパラを目前に控えた首都東京にあるクラブとして、街の魅力を世界に発信する機会と可能性を感じている。